

「文部科学省要望活動」【概要】

■日 時 平成23年9月2日（金） 15:20～16:00

■場 所 文部科学省3F 2会議室

■出席者 文部科学省

清水事務次官、藤木局長、田中審議官、田中次長、松浦次長
福島県原子力損害対策協議会

会 長 佐藤雄平（福島県知事）

副会長 瀬戸孝則（福島県市長会長、福島市長）

副会長代理 加藤憲郎（福島県町村会長、新地町長）

協議会会員代表者等（市町村関係者）

■内 容

1 協議会から要望書の手交

- 協議会会長（知事）から清水事務次官へ要望書を手交。



2 質疑応答（主な発言）

【協議会副会長 瀬戸孝則】

- 日本では放射線に関する教育が確立されていないため、自治体間の対応に差が生じている。
- 校庭土の除去費用を市で負担したため、来年度の予算が組めない状況にある。早急に支払ってほしい。
- 自主避難した人、避難したくても避難できない人、皆一律に賠償して欲しい。
- ロシアでは食物の確定基準値を出している。国はそろそろ暫定ではなく明確な基準値を示すべき。



【協議会副会長代理 加藤憲郎】

- 町は地震津波による被害を受けたが県全体は放射線の被害を受けている。
- 子供たちが不自由な生活を余儀なくされている。先生たちが何とか不安を除こうと一生懸命やっている。



- 我々でできるところは一生懸命やっていくが、国の指導、責任の下で早く元に戻して欲しい。

【井戸川双葉町長】

- 双葉郡内の教育環境は非常に劣悪である。避難が長期に及ぶなら、仮校舎でまとまって学べるような方策をお願いしたい。
- 高校生が離ればなれになっており多くの苦情が寄せられている。
- 補償については、当時の行動や損害額等の記録を後から付けろと言われて、町民は非常に悩んでいる。手続きの簡略化をお願いしたい。
- 役場職員の仕事量が非常に増えているため、国などの応援体制を考えていただくようお願いしたい。
- 現在の災害救助法だけでは対応できない。もっと現実に踏み込んだ対応をお願いしたい。



【清水次官】

- 何ヶ月も長い間ご苦勞ご心配をお掛けして申し訳ない。
- 今の原賠法自体の見直しが宿題だと思う。今後議論が必要。
- 文科省でこれまで取り組んできたこととしては、
 - ① 審査会で中間指針を作成したが、指針に示された範囲のみならず、他省の報告等も受けてあらゆる損害について議論を深めていきたい。
 - ② 国の補正予算で 1,200 億円を予算化し賠償手続きが円滑に行えるようにした。
 - ③ 和解仲介センターを審査会の下に設置し、昨日は 6 件の問い合わせがあった。
- 今後は和解申し立ての中で、事例をできるだけ類型化し積み上げることが重要。
- 本日の要請については、今後審査会を再開した際に参考とさせてもらいたい。
- 今後、事例を類型化するためのデータ、考え方をいただきたいと思っている。
- 放射線教育についても現在作成中なので、できるだけ近いうちに示したい。



【三保二本松市長】

- 5ヶ月経ち、市民は惨憺たる状況の下での生活を強いられている。
- これまでの国の対応は後手後手の対応のため、被災者の立場に立った対応をお願いしたい。
- 自主避難した人、したくてもできず放射能に耐えている人、福島県民全てを賠償の対象にしてほしい。

【古川川俣町長】

- 文科省として子供たちが安心して暮らせる基準を早く示して欲しい。
- 土壌が汚染されたグラウンド表土の除去費用については、国が100%財政措置してほしい。



【佐藤会長（福島県知事）】

- 「常識は東京ではなく福島にある。」現地でなければ分からないことがある。
- 全国高等学校総合文化祭を開催してよかったと思っている。創作劇において高校生が、子供たちが福島に生まれて、福島で結婚して、福島で子供を産んで、孫を見てひ孫を見て福島で最期を過ごしたいと訴えている。本当に素晴らしい創作劇、メッセージとなっているので、是非見ていただきたい。

【清水事務次官】

- 放射線問題については学説が分かれており、年間100 mSv以下ならばリスクゼロという学者もいる。
- しかし、低ければ低いほどいいというのがリスクの問題である。ただ現実の中で、どのように折り合いをつけるかが難しい問題である。
- こういった状況の中で、学校での活動における目指すべき基準として、私どもは年間1 mSvというのを1つの目安としている。
- これから大事なのは、先ほど知事が言ったとおり福島総文の創作劇にあったメッセージなどを大事に育てることと、発生した損害をどうやって賠償していくかだと思う。
- 要望については、今後きちんと整理していく。

【佐藤会長（福島県知事）】

- 各省庁の横の連携をしっかりとっていただき、対応を一元化させてほしい。
- 霞ヶ関は世界最大のシンクタンクだと思っている。霞ヶ関の各省庁の職員には全力で頑張ってもらいたい。